

平成30年度第1回佐賀市文化振興基本計画推進懇話会
会議録

開催日	平成31年2月14日(木)	
開催時間	14時00分から16時05分まで	
出席者	委員	高島会長、金子副会長、西原委員、白木委員、富吉委員、宮崎委員、古賀(香)委員、古賀(恵)委員
	事務局	東島教育長、百崎教育部長、宮崎文化振興課長、北島副課長、谷澤係長、重永主査
議事	◎文化振興基本計画の重点事業について (1)平成29年度 主要事業実績について (2)平成30年度 主要事業計画の進捗状況について (3)文化振興基本計画の数値目標について	
欠席委員	なし	
傍聴者	なし	
報道関係者	佐賀新聞社	

◎議事 平成29年度の主要事業実績と平成30年度主要事業の進捗状況について

○会長

平成29年度の主要事業実績と平成30年度主要事業の進捗状況について事務局から説明があった。ご質問やご意見等はないか。

○委員

東名遺跡整備基本計画策定の中で、埋蔵文化財センターを東名遺跡のガイダンス機能を併せもった施設にできないか検討するとあるが、いつまでにとというのがない。完成の目処が何年というのはないのか。

○事務局

財源は合併推進債を使おうと思っており、34年度までに完成、35年度から供用できるように考えている。これからの計画としては、31年度に整備基本計画を策定、そのあと基本設計、32年度に実施設計、33年度から工事に入りたい。

○事務局

先ほどのスケジュールは、あくまで担当課としての希望であり、決定したものではない。いずれにしても、このスケジュールだと非常にタイトである。現在、東名遺跡整備基本計画については策定途中であり、整備に関する経費はまだ予算化できない状況にあるし、三重津海軍所跡はガイダンス関係の基本設計に入っており、今から工事に入っていくので今後費用がかかってくる。三重津も文化庁の補助を受けるが、文化庁の補助金はかなり削減されてきているため、もしかすると三重津の整備を少し先に延ばさざるを得ないという状

況の中で、新たな文化財関係のハード整備となると財源的に非常に不透明である。他にも、2023年国民スポーツ大会関係で色んな費用がかかってくるので、工事をいつ開始できるか、基本設計をいつ始められるか、現段階でははっきりしていない。

○委員

合併推進債を使う場合、34年までに何らかの道筋をつけないと利用できないのか。

○事務局

財政的なことを考えたら合併推進債を使わないと厳しい。そういう財源があれば出来れば使いたい。そうすると34年度までに事業を終わらないといけない。開館はその後でもいいが、竣工は34年でないとけない。

○委員

施設の規模や内容により建築期間は変わってくると思うが、31年度で設計し32年度入札発注になると、実質、工事が1年半もなく無理である。まだ場所の選定も残っている。これに、用地取得が入ると恐らく完全に無理である。

○委員

一番の問題は場所である。

○会長

ガイダンス施設となると、遺跡のすぐ近くに作るのが通常である。

○事務局

展示遺物も東名遺跡が中心になるので、ガイダンス施設となると東名遺跡周辺となる。

○会長

埋蔵文化財センターとの機能のずれが相当あるのではないか。

○事務局

埋蔵文化財センターは展示や活用のほか、収納、整理作業等も含めた埋蔵文化財の総合的な施設であり、ガイダンス施設は1つの遺跡を対象に、その遺跡に関する展示や内容を解説するものである。東名遺跡に関する展示等がガイダンス施設、その他の整理作業や収蔵に関しては埋蔵文化財センターの機能であり、それぞれの機能に沿って補助金を受けたいと考えている。ただ、まだ施設の内容がはっきりしていないので、文化庁との具体的な話は進んでいない。

○会長

史跡東名遺跡保存活用計画書（案）の文章中にはあるが、ガイダンスの場所等はこの巨勢川調整池の中にはつくれないか。

○事務局

国交省に話しているが巨勢川調整池の管理には関係ない施設なので難しい。

○委員

財政的な問題があり先に進めるのが大変だが、計画の全体像が固まらないと施設を建てるのは難しい気がする。

○委員

担当課としてはガイダンス施設が先に欲しいのか。埋蔵文化財センターを建て、あちこちに分散している遺物を集めて公開したいのか。状況によっては、場所も今とは全く違うところも考えていかないといけない。両方併せて作ろうとすると時間だけが経っていく。

○事務局

保存、保管、遺物の整理などは旧城西中学校でやっている。ガイダンス施設を作るとなると東名遺跡の周辺となる。2つの機能が離れていると効率が悪い。旧城西中は老朽化しており耐震補強もしていないので、ガイダンスと埋蔵文化財センターが一体となったものを何とか作りたいと考えている。

○委員

そういう形で、今の整備基本計画の中では話し合いをしているのか。

○事務局

建物については、基本計画策定の中でこれから話をする。

○委員

東名遺跡のガイダンスの面の話で、現在の展示関係は、最初の名前が徐福湿原の森づくりの会というNPO法人で、今は名称が変わられたがその法人がされている。ある程度の規模でガイダンス施設をつくったときに、またそのNPO法人にお願いするのか、それとも、市が専門的な知識をもってするのか。早めにはっきりさせておかないといけないのではないか。

○事務局

ガイダンス施設をきちんと作るのであれば、それは当然市の職員がそこにいる形になると思う。今、東名縄文館という形で巨勢川調整池の管理棟の1階部分を借りて展示をしているが、ガイダンス施設が出来たとしてもそこは恐らく何らかの形で残すことになると思うので、そこでNPO法人には案内をして頂く。

○委員

活動の場を残すということですね。

○事務局

NPO法人には活躍の場は必要だし、ガイダンス施設がある程度の広さがあれば、NPOやボランティアなど、活動をしていただいている方々の控室といった場所もつくれば良いと思う。現地に来られた方の案内などは引き続き行って頂きたい。色んな体験学習等も行っていくことになるので、市職員だけではなかなか出来ないところなどを続けてやって頂ければと思っている。

○会長

発掘した史料は膨大な量で、その成果を展示するとなると展示できる史料は随分ある。しかしながら、東名遺跡の出土品は意外と地味である。佐賀市には弥生、古墳、古代と、展示効果のあるものがたくさんあると思うので効果的に展示できるようにできれば良いと

思う。埋蔵文化財センターならそれなりのスペースが取れるが、残念ながら、ガイダンスの展示は廊下に並べるくらいの機能しか持っていない。体験的なものとか、講座を開くスペースとか、そういうものが少しあるとよい。埋蔵文化財センターとガイダンスを併せて計画を進めていくと、計画も進めにくいし、どちらかが矮小化されてしまう。はじめから併せて検討を進めるというのは、昨年まで策定委員により計画策定された埋蔵文化財センターとガイダンスとは違うのではないか。

○委員

もう一つ心配なのは、費用のかかる施設を、市民をはじめみんなに見てもらうのは必要だが、精煉方も用地取得はしたが後をどう使うか全く見えてこない。三重津もある程度発掘は進んだが、埋め戻してしまっただとどう市民にも市外から来た方にも見せるのか。精煉方も発掘調査してあとは埋め戻してしまうとただの広場であるが、そういうものを全体的にどう見せていくのか。項目ではわかるが全体の中でよく見えない。そのあたりはどうか。

○会長

私は、佐賀市全体の歴史遺産をどのように保存・整備・活用していくか、全体構想があり、東名、肥前国庁、三重津などをどう位置づけるか、これからどう整備を進めていくか、また、文化庁の補助金も厳しいので、文化庁だけの補助金で進めるか別な手法で進めるか、などが気になる。もっと、全体的な構想や位置づけが現場で把握されていないとばらばらになりかねない。

○事務局

各委員が言われるように、全体構想的なものがあるのが一番いいと思うが、そこまでいなくても、本来は、この埋蔵文化財センターというのがはじまりだった。佐賀市の文化財の情報発信の拠点として、そこを中心に精煉方、三重津、東名など色んなところに来場してもらおうという構想のもとに、さらには、埋蔵文化財センターの話が出た当時は、東名遺跡の出土遺物が将来的には重要文化財になるだろうから、そのために収蔵する場所として温湿度管理の出来る所などが必要なのでということではじまった。その埋蔵文化財センターをつくる時のコンセプトとしては情報発信の拠点、全体を大まかにカバーして、後は現地に行って、見て、感じてもらう。先ほど委員が言われたように、確かに現場は見えないが、それは埋蔵文化財の宿命である。三重津は映像なども使って情報発信をしようとしている。そういう形で考えていたが、今のところ、埋蔵文化財センターの話よりもガイダンスの方が先行している。佐賀市として、東名遺跡のガイダンスと埋蔵文化財センターと別々の建物を作れるほどの余力はないので、なんとか一箇所で進めようとしている。もちろんガイダンス施設と埋蔵文化財センターは別物だが、同じ場所で出来ないかということで進めている。しかしながら、今では埋蔵文化財センターというのが機能として持つ規模にできるのかというような状態である。やはり一緒にするとどちらかが矮小化する懸念はあるのでどうにかしたいが、担当課が希望する規模でいけるのか不透明である。

○委員

埋蔵文化財の見せ方について、並べてあるものを見るという昔の形でなく、今からは三重津のような、何も無いところで眼鏡をかけるとただの海が具体的なものに見えるというようにITを加えた視点がいいと思った。私達がこれから考えていくときはITも外せない。スマートフォンを持ちながら来場し体験できるようなものが、今までにない形で出来ていくのではないだろうか。これからの施設は建物をつくって入るというものでなく、今までとは違った展示の仕方を考えながら作っていくのだと思う。

○会長

ガイダンス施設というのは保存施設ではない。収蔵庫を作れば別である。

○事務局

東名遺跡に関しては、小規模な保管施設をつくることは可能である。

○会長

通常のガイダンス施設にはつくらない。

○委員

精煉方については、用地を取得し一部発掘されているところで、これから発掘が進めば色々な史料が出てくると言うことで、今後の進捗状況報告を楽しみにしている。しかし、先ほど委員が言われたように、発掘が終わり埋めてしまえばただの広場になってしまう。なので、埋蔵文化財センターを佐賀市の文化財の発信基地として、そこで色々な資料、データを見て、それから実際に精煉方に行って史料や展示物を見ることが出来るようなガイダンス的な建物を出来るだけ早くつくってと思うが、時間がかかるようだ。

○会長

精煉方は理化学研究所が出てくれば三重津と一体的に捉えて世界遺産に追加登録になると思う。そう考えると、世界遺産に登録される、近代化遺産に登録されるようなものがあり、どれをどうするかも考えていたほうがいいのではないかと思う。

○委員

VRを付けて何も無いところで物が見えるのは分かるが、やはり、そこから出てきたものと言うのはこういうものだという、実感の部分の展示も必要である。東名遺跡のガイダンスは多分、部分的にはそう言う実感の部分の展示と保存の両方である。保存を一括でするか、分散するかが一番難しい。人手も余計かかることになる。

○委員

一般の人が見るには映像化したものが分かりやすい気がするが、考古学とかそういった視点で見たいと言われる方には実物展示がどうしても欠かせないだろう。ものによっては、実物展示でも空調など物凄い費用がかかるので線引きが非常に難しい。それから、精煉方などはかなり広いが、遺物を現地にそのまま置いておいた方が、スケール感、迫力が理解できると思った。それからもう一つ、東名の時代から後世へと、歴史の積み重なりを捉えやすい方法があるのではないかと思う。そうすると、少し興味を持てば一番古い東名から

紐解いていくことができる気がする。

○会長

東名遺跡のかごは完全に土から外せるか。

○事務局

土ごと取り上げて保管している。

○会長

土と植物的なものを一緒に固定するのはかなり難しいが保存処理の見通しは立っているか。

○事務局

編みかごについては、何年もつかということはあるが、形のあるものは保存処理はほとんど終わっている。

○会長

それは今、どういう保存の仕方をしているのか。

○事務局

旧城西中にプレハブ倉庫を建てて保存している。保存処理の完了したものは常温でも問題ないのでコンテナ等に入れて保管し、展示できるものは東名縄文館にいくつか展示している。保存処理をしていないものについては水につけて定期的に水を入れ替えたりして保管している状態である。

○高島会長

資料中には特に埋蔵文化財センターとの関係は書いてないが、遺跡があるとガイダンス施設が必要になってくる。埋蔵文化財センター的機能とガイダンス施設を一緒に出来るか。この委員会の中では一緒に議論されているか。

○事務局

今、基本計画の中では史跡整備の方から議論されており、建物については来年度から具体的な検討していくことになる。

○会長

史跡としての整備も難しい。

○事務局

現物を外に出せないなので、かなり限られた整備しか出来ないと思う。そして、巨勢川調整池という調整池の中にあるため、あまり大きな整備と言うのは難しい。ただ、巨勢川調整池という立地を活かした整備を行ったり、調整池の景観も利用できればということで、国交省にも協議をしているところである。

○会長

周辺に植栽することは国土交通省は嫌がるだろうか。

○事務局

植栽は植えてもすぐ枯れるようである。調整池の一角の縄文の森というのもNPO法人

の方が木を植えられたようだが成長が悪い。

○会長

あの土手に植栽をしてはどうか。

○委員

国交省は土手に植栽するのは嫌がるだろう。

○事務局

東名縄文館は4階と高く、屋上に上がれば結構景観が見渡せる。今は許可が無いと上がれないが、見学者が自由に上がれるように出来ないかと考えている。

○会長

今、国交省はどこまで建物を利用しているか。

○事務局

1階の展示スペースの一部、2階、3階を使用されている状況である。

○委員

文化財の保存で、無形民俗文化財の補助金の見直しをするとあるが、5ページの民俗文化財の行事の起源は。いつ頃から始まったのか。

○委員

わからないところが多い。

○委員

江戸だとか言うのも分からないのか。

○委員

難しい。

○委員

浮立は江戸といっても江戸のいつ頃からはわからない。江戸には発生していたと思う。

○会長

カセドリ行事を行っている村はいつ頃からあるか。

○委員

言い伝えだが、あそこは江戸のはじめである。

○委員

城原川の傍で低湿地だし、川の流れによっては集落として存在したかも、いつ頃かもわからない。

○委員

いわゆる、はやり病が流行したというのがある。

○会長

どのような意見が代表者会議で出たのか。

○事務局

無形民俗文化財団体の意見としては、見島も含めて継承者に関する事が一番である。

実施のための経費も必要だが、それよりも人の確保に困られている状況である。

○会長

継承者の確保が難しいというのは、その地域から出て行く若者が多いということか。

○委員

見島は独身男子と決まっているから人がいない。絶対人数が少なくなっている。

○事務局

子どももいないし、居住者も色んな方々が外から入ってこられているということもあり、祭りや行事自体に理解を示して頂けないという方も多いようだ。

○会長

日本各地でそういう問題を抱えていると思う。少し違うが、山笠、唐津の曳山などは参加者が増えているのか。どちらかという外部からの参加者が増えているのか。

○委員

そうですね。周りの方も受け入れもよい。

○会長

祭りをする人たちの層が少し変わってきているのか。

○委員

見島のように、元々は疫病退散や豊年を祝うためのものが、観光化され、見栄えを大きくしようと誰が参加しても良くなった祭りは増えてきている。佐賀ではそうした祭りは少ない。あくまでも地域に住んでいる人が行うということになると、人口減少で若者が減れば祭りをを行うのは難しくなる。一方では、補助金の支給といったような援助をきちんと出来ているのかとも思った。

○会長

阿蘇神社では、文化庁から今度の文化財保護法の改正では観光を意識して活用してほしいという話があったそうだ。しかし、信仰という神域の問題があり、やはりどこかで一般と違う聖域がある。その線をどこに引くかを悩んでいると話しておられた。国から修理費用がかなり出るが、やはり観光的活用について神社に指示があると言っておられた。

○委員

地域活性化のために無形民俗文化財を活用しようと様々な伝承芸能祭が行われその補助金があったが、無形民俗文化財を行う者にとってはメリットはかなり少なかった。無形民俗文化財は普段の所で行っており、表現する場は必要ない。来て頂いても良いが、来て頂いても、良く見たらわかるように、祈りの意味合いが強いものばかりである。心の面、心があって文化があると思うが、文化庁はその面を無視して表面だけしか見ないのか、その辺りが疑問であり、不思議だなという部分である。

○事務局

活用はいいが、文化庁は経済活性化をすごく表に出してきた。文化GDPというのがあり指標になったりしている。文化庁がそういう姿勢である。

○委員

そうでなければ、文化庁に予算がつかないのかと思う。

○事務局

そこで生まれたお金をまた保存や継承に循環させていくという言い方ではあるが、少し違うのではないかと思う。世界遺産なども本当はきちんと保存していくためのものであるはずだが、日本の場合は特に世界遺産となったら本当に観光的に使われるようになってしまっているの、少しおかしいのではないかなという気がする。

○会長

世界的に、世界遺産登録というのは観光資源である。

○事務局

日本は特にそれが強いらしい。

○会長

平成の時代と言うのは、世界遺産登録が全国的に非常に盛り上がった。その一つの位置づけになったのが吉野ヶ里であるそうだ。ただ、私の発想は、最初から観光資源、地域資源にするということが基本計画を立てる際の一つの重要な目標にはなっていた。そういう意味では、今度の文化財保護法での制度化というのは明らかに後追いだと思う。来年度予算がどういう風になるか、文化財の保護と観光化をどう統一するかは文化庁自身がもう少ししっかり考えを持たなければならない。民俗文化財ははっきり言うと祈りの行事である。地域社会自体が崩れてきている中でどうやって行事として残すか。一つは、人がいなければよその人の参加をどうするか。

○委員

カセドリを例にすれば、カセドリの鳥役の人は未婚の男子青年と決まっているが、将来的には、未婚者だけだと本当に人員的に難しい時があるので、ある程度枠を広げて既婚者まで取り込むなどそういう変化はやむを得ないと思う。他に、浮立にしても、男子しか参加できない役があるが、その役にも女性が参加するなど少しずつ変化する。行事は神事の意味合いが強いため、活性化のために観光的な要素を入れるのはやはり難しい。

浮立や田楽、獅子舞などと比べると、唐津くんちは全く別のものになっている。伊万里トントンテンは観光化してきていたが、何年か前に死亡者が出たので荒々しい喧嘩的要素がかなり大人しくなってきた。観光化しようと思えば荒々しさを求められるがそういったところが難しい。

○会長

唐津くんちも屋根にのぼったりして派手になってきている。宗像が宗教的なことで沖ノ島には一般者は入れないことにした。それは、宗像大社としての考え方だろう。文化庁の意図とはだいぶ違うが、そういう信仰上の一線を引いたのではないかと思う。

○委員

5 ページに無形民俗文化財の佐賀市内の一覧表がある。30年度の主要事業進捗状況の

中で、地域の伝統芸能や保存会にヒアリングを実施とあったが、5ページの保持団体全部にヒアリングされたのか。

○事務局

できていない。

○委員

保持団体で付け加えたほうがいいとか、中断中と書かれていないけど今は実施していないなどがあるようだ。中断中というのは、たまたま1年出来なかったのか、何年も前から途切れているのか、こういった一覧表を作るときははっきりさせていたほうがいいと思う。例えば、25番の榎木の獅子舞。これは金立神社の2200年祭の時に実施して、それから実施していない。

○委員

佐賀市100周年のときに佐嘉神社で実施した。

○委員

もしかしたらまた実施されるか分からないが、依頼がないところは実施されない。定期的に実施している団体ではないので続くかどうか分からない。あと14番の嘉瀬の乙護神社奉納浮立。乙護神社の氏子は荻野と東原である。あと、金立神社の、23番の金立の鉦浮立だが、東千布自治会等となっているが白鬚権現神社へ奉納される浮立と、金立神社へ奉納される浮立があり、東千布は白鬚権現神社に奉納される方である。金立神社にも浮立があるのでどちらを記載しているのかわからない。金立の天衝舞浮立が金立自治会となっているが、金立自治会はないのでこれもわからない。あと、用具の補助金申請時に、片方に案内して片方には案内していないとならないよう、なんとか等と記載しているところは、未指定でもはっきりしたほうが良いと思う。

○会長

文化会館は県のアリーナが出来るとだいぶ違ってくるか。

○委員

8000人と規模が大きすぎると、佐賀市とか地元の人が借りてアリーナを使うことはまずゼロだと思う。逆に、100人とか200人とかいう規模の会議室などが今はない。

○事務局

県の想定としては、第一義的にはプロスポーツ関係を想定している。第一義的には体育施設であり、あとは音楽、芸術関係だったら商業ベースのもので考えていると思う。以前、一般の方が借りられる金額ではないというようなことを聞いた。

○委員

文化連盟としては、さき程の200人、300人規模の、舞台があり、ある程度の音響があるホールが気楽に借りられない、少ないというのはある。文化会館大ホールで2000人を超えるとそこまでいっぱいにしきれない。地域で色んなことをしておられる方にとっては、公民館では少し狭いのでもう少し広いところとか、発表会をするにはこういう

ホールがいいという部分があるが、そういう方の発表の場があまりない。

○会長

アリーナの影響はないか。

○事務局

影響がないというか、商業ベースのものがそちらへいく。

○委員

全国的に見て、コンサートをみれば、中間の何千人規模というコンサートはなくて、きちんとした音響設備があり、音響効果の良い2000人以下くらいのホールで全国ツアーをしたいというものか、ドームが全国で5つ6つくらいあるので、ドームだけまわって一度に集客するものか両極端だと思う。これから、益々そうなっていくと思う。その間の規模のコンサートなどはあまり聞かない。

○委員

この基本計画に、東与賀文化ホールは利用率が低いとあった。資料2の色々なデータのうち、参考データとして、今年度目標値が東与賀は34,000人、文化会館は420,000人とあり、文化会館は上向きに、東与賀は下向きにという結果になっている。東与賀は施設自体が小さいのでそうだろうと思うが、利用者を振り分けるというか施設案内はしているのか。施設案内をしていないのであれば、こういう施設があり駐車場もあると案内してはどうか。もう一つは、市民の文化活動を支援する補助制度としてチカラットがあるが、結構、ホールを使って練習をする団体がある。補助制度が二重になる部分があるが、利用されていないところを使うほうがいいという発想からすると、こうした団体に施設利用の補助をして使用料を安くすると利用率は上がるだろうし、喜ばれると思うがどうか。

○事務局

東与賀文化ホールはこの計画をつくる頃は利用率が低かったが、平成28年に市民会館が閉館して以降は、そこを使われていた方々が東与賀文化ホールを使用されるようになったことが大きく影響して利用率は結構上がっている。伸び悩みはあるかも分からないが、伸び悩みは平日利用である。やはり土日利用されたいという方が多く、土日はほぼ埋まっている状況である。利用者がこの施設を使いたいという思いがあるからそこに問い合わせがあるのだと思うが、あいてないときは違うところを紹介している。

◎議事 文化振興基本計画の数値目標について

○会長

数値目標に関して何かないか。

○委員

東与賀もあわせて全体的に平成29年度よりも平成30年度が落ちている。平成29年度の東与賀が増えた要因はなにか。

○事務局

平成29年度の後半の6ヶ月は、県の3つの施設が一度に工事に入ったため。

○委員

それを除いてもある程度、入場者数は順調と見てよいか。反対に、成果指標②、③、④は自分自身が参加したと言う人は減って、目標値のかなり下であるということは、目標値は超えられないということか。

○事務局

現状としては厳しい。

○委員

成果指標②、③、④の参加していない人をどうにか動かす方法はあるのか。それはどこで考えるのか。

○事務局

それぞれで考える。

○委員

(1)はアンケートか。対象者はどうやって選ぶのか。

○事務局

無作為抽出である。

○委員

アンケート方法は郵便か。

○事務局

郵便である。

○委員

郵送によるアンケートとなると、20代から30代の回答率は極端に悪い。

○会長

年齢別に結果を出せるか。

○事務局

データはある。先ほど少し紹介があったが、平成29年度実績で言えば30代、40代、60代、70代が前年より大きく下がっていた。概ねこういうアンケートは60代、70代の方の回答率が高く、そこが下がれば全体的に悪くなる。

○委員

統計の話で、アンケートのとり方、設問の仕方では結果は極端に変わる。特に郵送だとどうしても回答が偏ってしまう。そのまま結果としてしまうと年代層が偏ったりするので、難しいが、それを補正しないとイケないのではという気もする。

○事務局

総合計画でもこの指標を補正しないまま使っている。アンケートなのでどういう人に当たるかによる。今回、数字がかなり悪いが、これが傾向としてずっと下がっていくのか、

また上がるのか、もうしばらく見ないと何とも言えない。消費税が上がるとあまり文化にお金を使われなくなる傾向があるので、平成31年度実績はどうなってくるか少し心配なところである。

(終了)